

触覚を使ったリアルタイム情報伝達デバイス

◆実現できる未来

音声案内が難しいシーンに使える、触覚を使った情報伝達デバイス。

磁力を利用して浮き上がるピンの位置を事前に設定し、利用者は、デバイスに手をかざし、浮き上がるピンが当たることで情報取得が可能に。

（情報の伝達の方法（ピンの浮き上がる位置）は、点字や数字のテンキーの位置など自由に設定可能）



- ・本製品/サービスの販売先（☒BtoB ☐BtoC ☐その他）
 - ☐一般消費者 ☐製造業（☐メーカー、☐加工、☐その他） ☒サービス業
 - ☐情報通信業 ☐小売業 ☐飲食業 ☒その他（金融）
- ・製品/サービスの内容

ATMの予算残高など音声での案内が難しい状況で使える、磁力ピンを利用した触覚による情報伝達の補助デバイスです。

磁力ピンは軽い磁力で浮き上がるだけなので、押すとすぐ下がり、しっかり手指で触って凹凸を確認することはできないため、補助的なデバイスとしての利用が前提です。

デバイスの下に敷いたシートに、特定の磁性パターンを覚えこませ、それを磁力ピンの下をスライドすることで、磁力ピンが浮き上がります。

デバイスの上にかざした手あるいは所定の位置に置いた手指を軽く叩くような形で情報を伝達できます。

磁性パターンを覚えこませる、シートをスライドする機構を自動化すれば、連続した情報を提示することもできます。

1桁ずつ数字を表示することで、複数桁の数字も伝達することができます。

◆活用するシーン（開放特許）

NTT株式会社

『平面に凹凸の触覚を与える技術～おもちゃや絵本、インターフェースにデコボコ感を与える～』

（参考）本アイデアの実施者のイメージ、おすすめ業種※一例

情報案内に関する機器メーカー等（ATM等）

〔業種：☒製造業（☒メーカー、☐加工、☐その他） ☐サービス業
☐情報通信業 ☐小売業 ☐飲食業
☐その他（ ）〕

〔免責事項〕本資料に記載されているアイデア及び関連する情報について、その正確性や完全性、独創性及び新規性を保証するものではありません。技術的な制約や市場環境の変化等により、実現できない可能性があります。実現可能性については、ご自身の責任で調査・判断をお願いします。掲載された情報に基づいて行われた行為や発生した損害等について、近畿経済産業局、本事業事務局及びシーズ掲載者は一切責任を負いません。

〔管理元〕本資料は、シーズ掲載者の協力の下作成し、近畿経済産業局が管理しています。

問合せ・連絡先：近畿経済産業局 地域経済部 産業技術課 知的財産室 Tel:06-6966-6016

作成日：2025年11月

アイデア提供者： ☐ シーズ掲載者 ☒ 近畿経済産業局